

イチゴうどんこ病に対する有効な薬剤の探索

背景と目的

殺菌剤散布はイチゴうどんこ病に対する主要な防除法です。そこで、効果の高い薬剤や耐性菌の発生状況を明らかにすることで、殺菌剤の使用方法の最適化を図ります。ここでは県内の防除体系に用いられているSDHI剤とフルピカFの評価を行いました。



図1 イチゴうどんこ病

結果

① SDHI剤の防除効果

- SDHI剤の薬剤間で防除効果が異なりました。
- 効果が高い薬剤
 - パレード20フロアブル
 - カナメフロアブル

※SDHI剤：菌の呼吸を阻害する殺菌剤のグループ

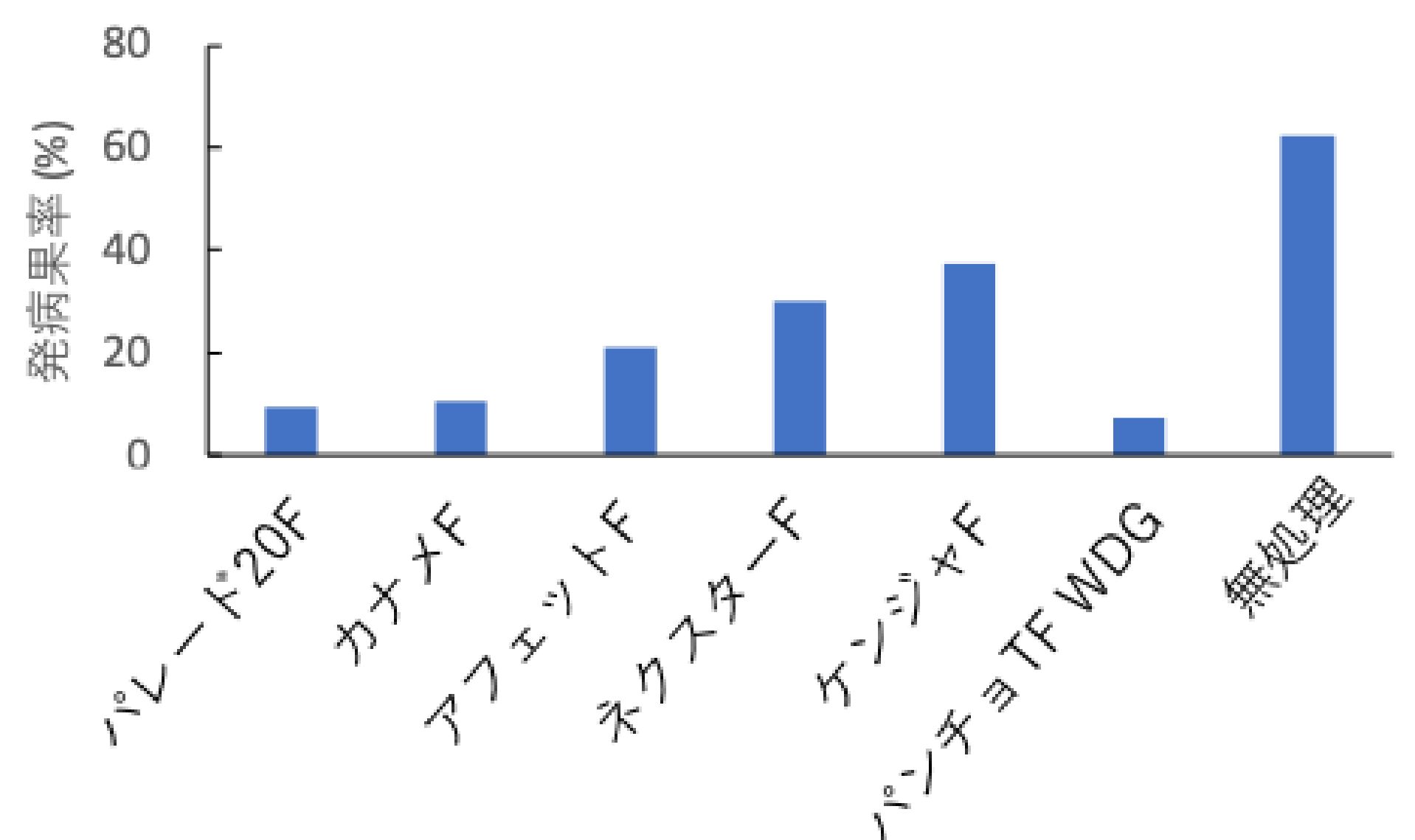


図2 果実に対するイチゴうどんこ病のSDHI剤の防除効果
パンチョTF WDGはDMI剤
薬剤は1週間間隔で3回散布（土耕栽培）

② フルピカFに対する耐性菌の確認

- 菌株Aに対してフルピカFの防除効果は極めて低くなりました。

→ 本剤に対する耐性菌の初確認

※フルピカFはAP殺菌剤に分類され、防除体系に用いられています。

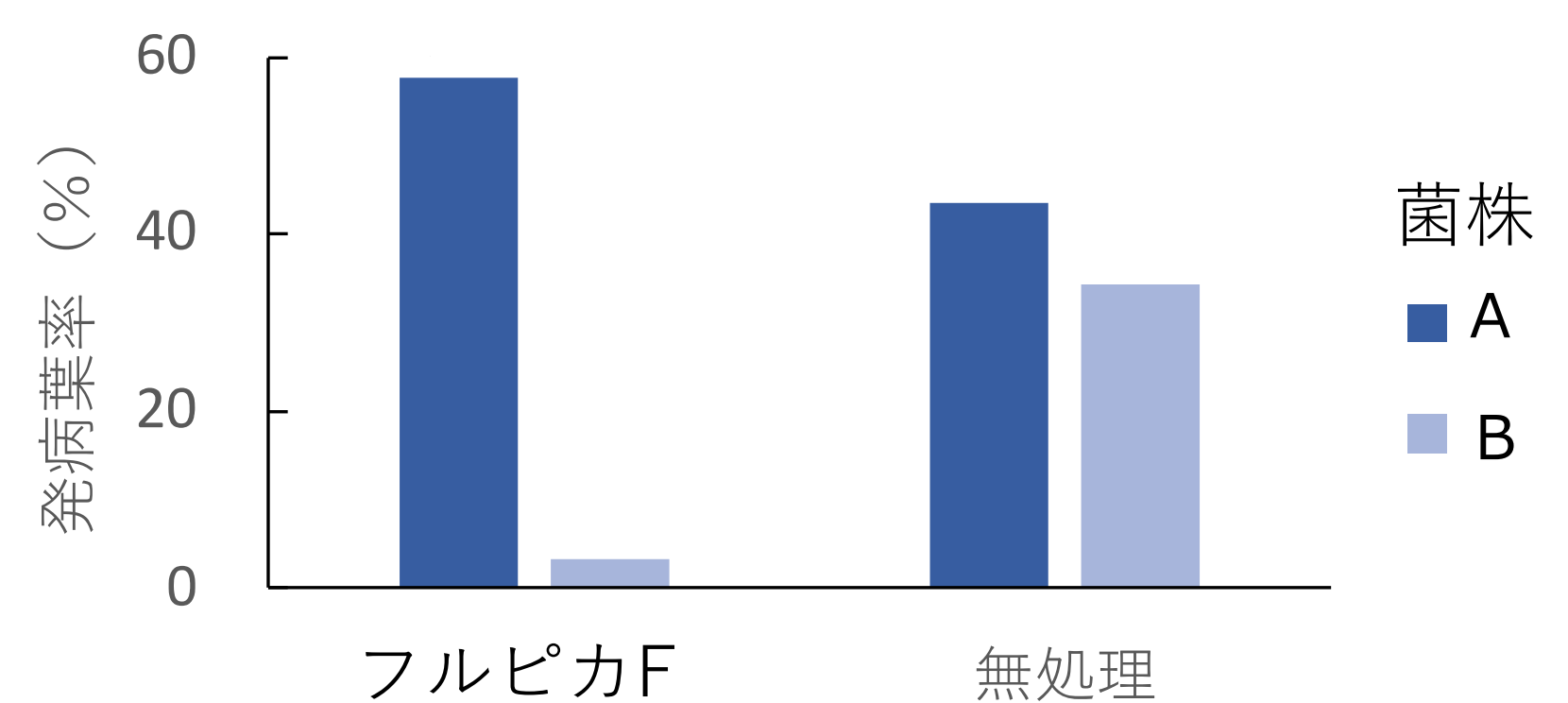


図3 葉に対するイチゴうどんこ病のフルピカFの防除効果
薬剤は1週間間隔で3回散布（土耕栽培）

まとめと今後の取り組み

- SDHI剤 5 剤のうち、2 剤は特に防除効果が高いことを確認しました。
- フルピカFに対する耐性が世界で初めて確認されました。

未評価の薬剤についても同様の取り組みを行い、耐性菌の発生リスクが低く効果の高い防除体系を確立します。

(2025年12月作成)